

千葉県生涯学習審議会

社会人学習者の状況と 学びへのハードル

リクルート進学総研 主任研究員（社会人領域）

白百合女子大学／淑徳大学兼任講師

乾 喜一郎

22.09.05

社会人学習者の特徴

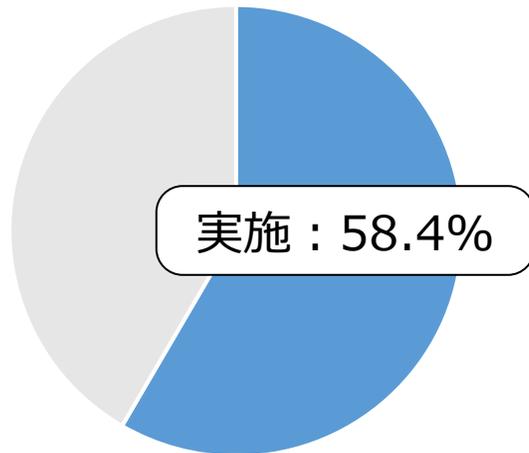
- 自発的に教育機会を活用する人は少数派
 - 実施者は固定化、学習を繰り返す。非実施者とは分断
 - 学習経験／実施状態により
「自発的学習者」「業務上学習者」「非学習実施者」と分類できる
→それぞれ学習実施へのハードルとその解消法は異なる
- ＞ 自発的学習者： 費用等の改善、講座バリエーションの拡大
- ＞ 業務上学習者： 学習意欲の喚起、学習機会とのタッチポイント構築
- ＞ 非学習実施者： 上記に加え
環境整備、学習の支援・伴走が必要

Appendix 学習実施率

◆ 「自分の意思で」 「学び事・習い事」 を実施する者は少数派

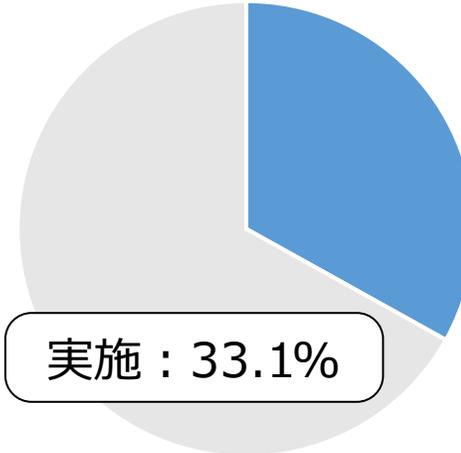
「学び」の定義

意思・目的・手段
に関わらず、
学習に関わる行動全て



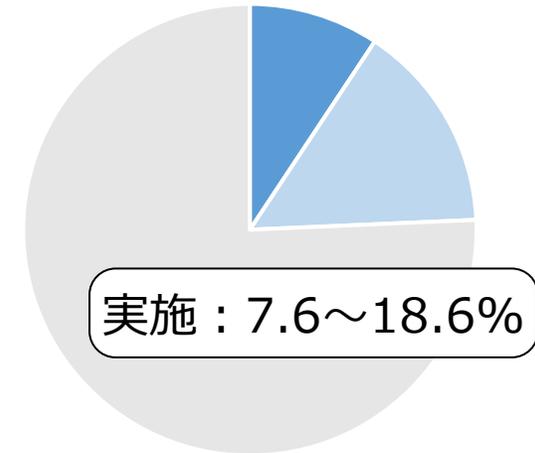
「生涯学習に関する世論調査」

自分の意思/
仕事・業務目的/
手段は問わない



全国就業実態パネル調査

自分の意思/
目的は問わない/
「学び事・習い事」



学びに関する意識・実態把握調査

Appendix 社会人の学習実施率 データの定義

あなたは、この1年間くらいの中に、どのような場所や形態で学習をしたことがありますか。この中からいくつでもあげてください

58.4%

内閣府「生涯学習に対する世論調査」

(調査実施18年6～7月、対象は全国18歳以上の日本国籍を有する者、有効回収数1710人)
複数回答で答えるこの質問に対し、何らかの手段を答えた者の合計の数字。職場における教育研修から自宅で趣味の本を読むこと、インターネットで何か調べ物をする事まで含まれる。

あなたは、昨年1年間に、自分の意志で、仕事にかかわる知識や技術向上のための取り組み（たとえば、本を読む、詳しい人に話を聞く、自分で勉強をする、講義を受講する、など）をしましたか

33.1%

リクルートワークス研究所「全国就業実態パネル調査 (JPSED)」

(調査実施18年1～2月、対象は15歳以上の雇用されている者、サンプル数30,223人)
趣味に関係するものは含まれないが、質問のように「詳しい人に話を聞く」ことまでが含まれる

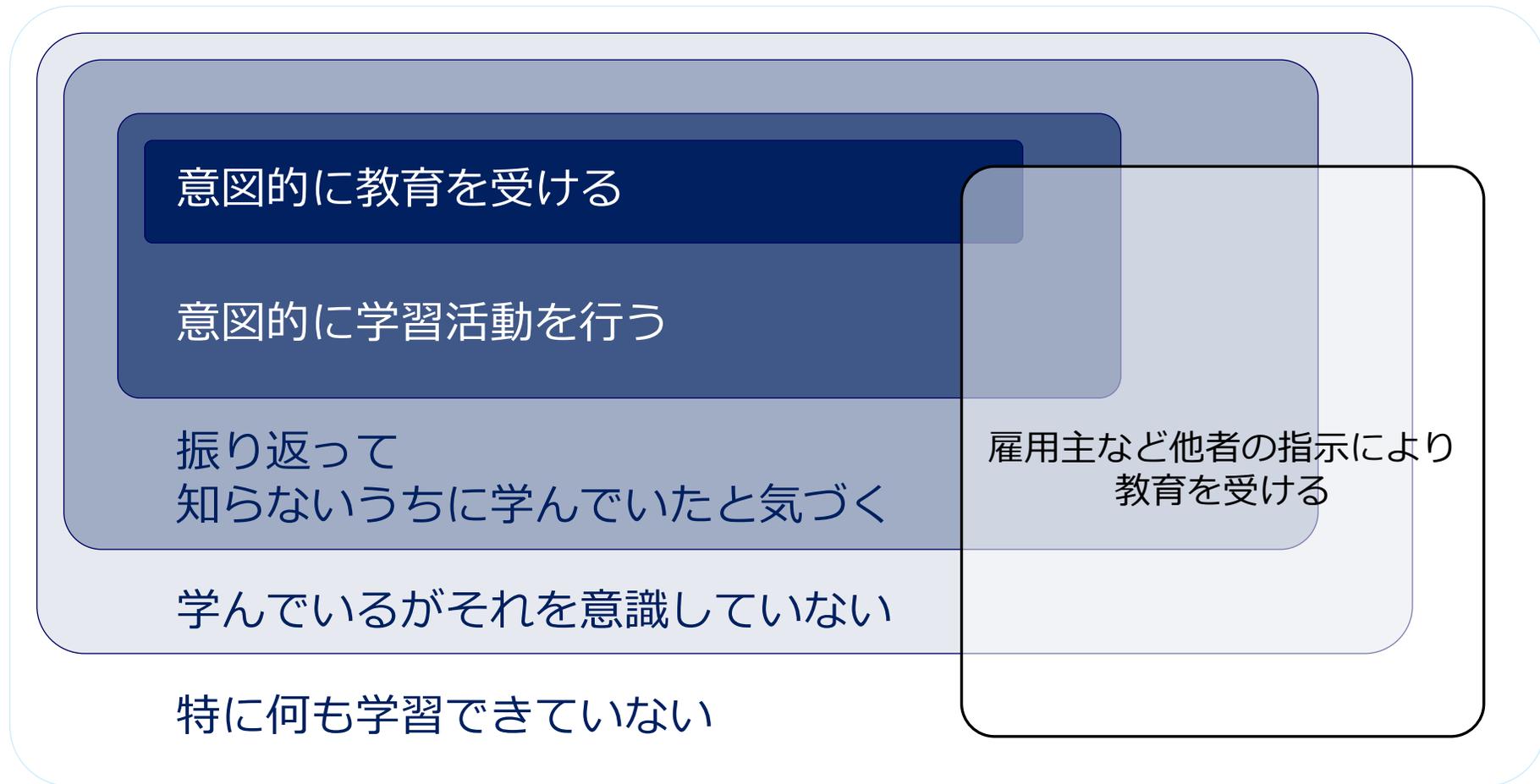
あなたはこの一年間で、職場の指示以外で
なんらかの学び事・習い事を実施しましたか？

7.6～18.6%

リクルートマーケティングパートナーズ「学びに関する意識・実態把握調査」

(調査実施22年3月、対象は全国の20～69歳男女有職者 サンプル数N=10,000 (男性5,012名、女性4,988名))
趣味系の習い事が含まれる一方で、職場の指示で実施した研修や業務中の調べものなどは含まれない。
年齢帯ごとの質問のため実施率には幅がある。

社会人にとって、教育を受けることは学習活動の手段の一つ

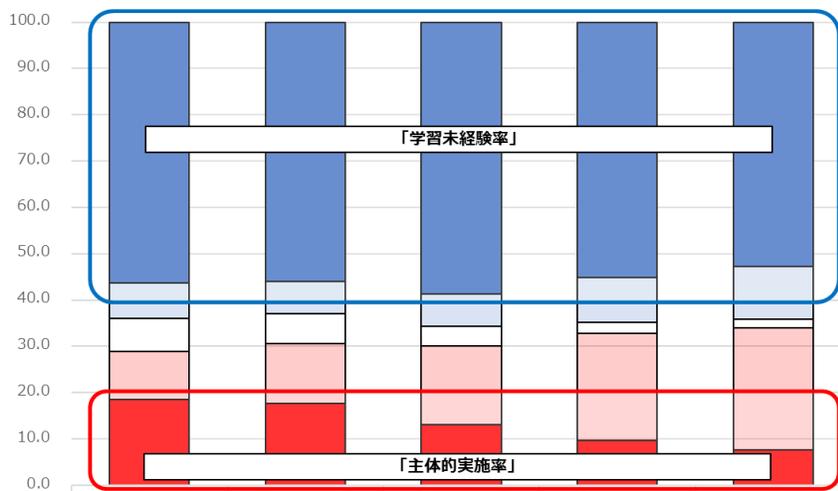


◆社会人にとって学習活動は教育と一致しない（佐々木2022をもとに筆者作成）

Appendix 年齢ごとの学習実施率と「未経験率」

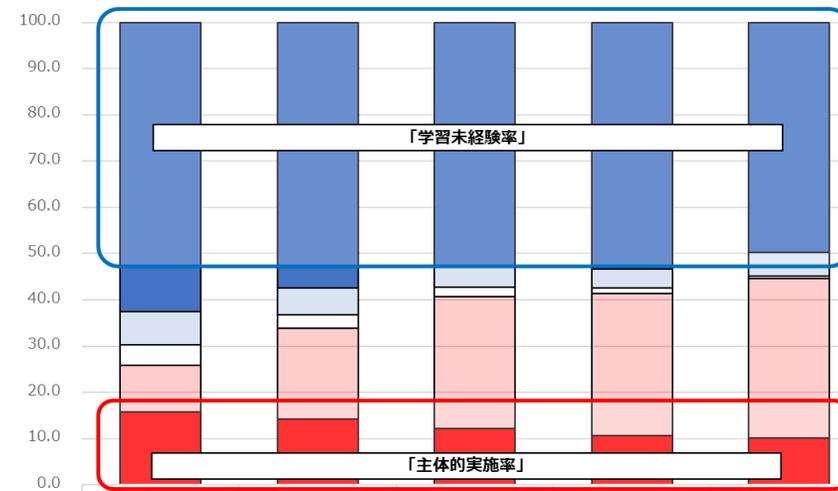
- ◆ 年齢が上昇するごとに、学習実施率は下がる（特に男性）
- ◆ 自ら学習を実施したことがない「未経験率」は年齢が上がってもさほど減っていない

学び事・習い事の「実施率」と「未経験率」（男性）



	20代	30代	40代	50代	60代
■ 全く実施したことはない (%)	56.4	56.0	58.7	55.1	52.8
□ 職場の指示で一年以上過去に実施もしくは継続 (%)	7.5	6.9	6.9	9.7	11.3
□ 職場の指示で一年以内に実施もしくは継続 (%)	7.2	6.5	4.4	2.4	1.9
□ 自分の意志で一年以上過去に実施 (%)	10.3	13.0	17.0	23.1	26.4
■ 自分の意志で一年以内に実施もしくは継続 (%)	18.6	17.6	13.0	9.7	7.6

学び事・習い事の「実施率」と「未経験率」（女性）



	20代	30代	40代	50代	60代
■ 全く実施したことはない (%)	62.5	57.5	52.7	53.3	49.7
□ 職場の指示で一年以上過去に実施もしくは継続 (%)	7.2	5.8	4.6	4.1	5.1
□ 職場の指示で一年以内に実施もしくは継続 (%)	4.5	2.9	2.0	1.2	0.5
□ 自分の意志で一年以上過去に実施 (%)	10.1	19.6	28.6	30.7	34.5
■ 自分の意志で一年以内に実施もしくは継続 (%)	15.7	14.2	12.1	10.7	10.2

「学習経験」によるセグメンテーション

A：自発的学習者

自らの意思で継続的に学習
実感値：全体の1～2割

B：「業務上」学習者

職場の指示により学習を行うことはあるが
自分からは学習にコストをかけない
実感値：全体の4割前後

C：非学習実施者

「学習」の機会がない、しようと思わない
実感値：全体の4～5割

学習実施の阻害要因は、学習経験のセグメンテーションごとに異なる

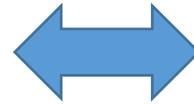
	学びの阻害要因	阻害要因解消の方向性
A : 自発的学習者	<ul style="list-style-type: none"> ・お金が続かない ・時間の都合が合わない ・内容・レベル・規模感が合う講座がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・費用面での障壁の除去 ・時間の面での障壁の除去、オンライン化、デジタル化 ・プログラムのバリエーション拡大
B : 「業務上」学習者	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの有効性に実感がない ・役立たなかったという「失敗」経験 →職場の指示・必要性がなければ 自ら費用・時間・労力を投じない 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らのキャリア課題が解決できることが容易に推測でき、かつ費用面・時間面の負担も小さい学習機会の拡大 ・企業等からの「指示」 ・学習の意味づけの機会
C : 非学習実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの有効性に実感がない (むしろ忌避感がある) ・学びを指示される機会はない ・環境が整っていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習開始までの伴走 ・学習実行のサポート ・学びを実施できる環境整備の支援

学び続ける人と学習を実施しない人の固定化

学び続けている人：学習による成功体験が次なる学習開始を支える

- ・一方で、実施しない人にはそうした成功体験がない

学び続ける人



学習を実施しない人

- > これまでの**学習による成功体験**が次なる学習開始を支える
 - ・報酬、実用性、承認、仲間、達成感…
 - ・「次もきっとおもしろいはず」と思える
 - ・学習後の自己像がイメージできる
- > 学習に対し**自分なりの意味づけ**ができる
 - ・学習内容に加え、コンピテンシー面、得られる支援など**多様な評価軸を持つ**
- > 周囲に多く**ロールモデルへのアクセスが容易**

- > **就学～初職の期間**に学習での**成功体験がない**
 - ・学習したことでメリットを感じたことがない（役に立ったという実感がない）
 - ・授業や研修は「**耐え忍ぶ時間**」、むしろ自己肯定感が傷つけられることも。
- > 自分の中には学習を**評価する軸がない**
 - ・得られる収入や地位、取得できる資格、職場の指示の有無など、客観的な尺度で評価
 - ・学習後その学習の意味づけがあれば習慣化
- > 周囲に**ロールモデルがない**

自発的学習者のためのリカレント教育推進政策

推進政策のメリット	具体的な推進政策
費用面での障壁の除去	教育訓練給付金制度の拡充（給付率↑、適用講座拡大） 求職者支援訓練 費用の小さい社会人向けプログラムの創設
時間の面での障壁の除去、 オンライン化・デジタル化	土日・夜間授業、サテライトキャンパス 通信制大学・通信制大学院におけるメディア授業の拡大 オンラインによる社会人向けプログラムの創設 オンライン比率の拡大
プログラムのバリエーション拡大	社会人向けプログラムの質向上、双方向化 履修証明プログラムの創設、単位としての認定 科目等履修制度 BP（職業実践力育成プログラム）の創設 単位互換制度の拡充